

坂和総合法律事務所

事務所だより

第12号 2009（平成21）年新年号

編集・発行：坂和総合法律事務所
〒530-0047

大阪市北区西天満3丁目4番6号
西天満コートビル3階

TEL06(6364)5871・FAX06(6364)5820

[e-mail office@sakawa-lawoffice.gr.jp](mailto:office@sakawa-lawoffice.gr.jp)

<http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp>



2008（平成20）年9月6日北海道、
NORTHERN HORSE PARKにて



今年もよろしくお願い致します。

多和・稲井・金子・永田・樹井
嶋津・坂和弁護士・細谷

新年明けましておめでとうございます。

- 1) 08年9月22日のド派手な自民党総裁選挙直後、あれほど確実視されていた太郎（自民党）VS一郎（民主党）の一大政治決戦＝衆議院解散総選挙は、「政局よりも政策優先」というわかったようなわからないような理屈によって、年明けに持ち越されることが確実です。ホントにこんなことでいいのでしょうか。

「CHANGE」を合言葉とした民主党オバマ新大統領の打つ手が着々と見えてくるアメリカと比較して、旧態然とした政争に明け暮れる日本の政治状況はあまりにも絶望的です。

- 2) 他方、国レベルにおける公務員改革も地方分権も掛け声だけで一向に進展しないばかりか、明らかに後退が懸念されます。そんな中、ひょうたんから駒のように（？）誕生した、大阪府の橋下徹知事の猪突猛進ぶりに私は注目し、敬意を表しています。

淀川水系の大戸川ダム反対闘争における、大阪・京都・滋賀の3知事連合の結束ぶりをみれば、道州制や関西圏構想もあながち夢ではなく、一步一步実現に近づいていける政策課題のような気がします。果たして私の目の黒いうちに、大阪府の解体という劇的な変革が訪れるのでしょうか。

- 3) 2009年は丑年。私の年であると共に1月26日に還暦を迎える私にとって、大きな節目の年です。幸

いこれまで1度も大病を患うことなく健康に過ごすことができたのは20年間続いているフィットネスのおかげで、毎朝毎晩の「カラダスキャン」による測定では肉体年齢は49～50歳を誇っています。

人間、還暦ともなれば人生観はもちろん仕事や趣味においても大きな転換期となるものですが、私にはまだまだそれはありません。つまり、今年も従来どおりのスタイルで、弁護士稼業や講義講演活動そして近時ますますウエイトが大きくなっている映画評論家活動に全力で取り組んでいくつもりです。

- 4) 全世界的な景気減速が不可避な情勢の中、日本の相対的な地位の低下もやむをえませんが、そんな中でもきっちりと自己の存在感を示しながら、年男として今年一年を過ごしていく決意です。厳しい日本国の現状下ながら、皆様のご健勝を心から願っています。

2009（平成21）年元旦

坂和総合法律事務所

所長 弁護士 坂和章平



2009年に向けての 弁護士坂和章平の抱負と決意

(1) 中国語による『坂和的〇〇』の出版は？

還暦を迎える2009年最大の焦点は、中国13億の人民をターゲットとした中国語による『坂和的中国旅紀行・中国電影紀行』（仮題）の出版が実現できるか否かにある。これは、07年10月の北京電影学院での特別講義、08年6月の『中国電影大観2 シネマルーム17』の出版の延長線だが、キーマンは事務所より08年盛夏号の交遊録で紹介した在日中国人作家の毛丹青氏。彼は観光大使などの仕事で東京や上海などを忙しく飛び回っているが、その合間をぬって私の出版計画をプロデュースしてくれている。私の原稿を中国語に翻訳してくれるのは、東京の王淑敏さん。出版社は上海文芸出版社。さあ、そんな夢の実現は今年のいつ？

(2) アカデミックな研究も！

最高裁判所は08年9月10日、42年ぶりに土地区画整理事業についてのいわゆる「青写真判決」を変更する画期的な判決を下した。私はこれについて、08年11月7日には大阪府の「都市整備事業推進セミナー」で講演し、さらに『市民と法』No. 54（08年12月号、民事法研究会）でその意義について解説した。この画期的な判例変更をもたらした要因の1つに、私たちが大阪高裁で獲得し、最高裁でも維持された大阪阿倍野再開発訴訟判決（最判平成4年11月26日／判例地方自治108号59頁）があることは明らかだが、その詳細な分析は今後の課題。今年は、こんな専門分野についてのアカデミックな研究もなければ。

(3) 『景観・眺望をめぐる法と政策—市民と自治体が共に進めるまちづくり』（仮題）を今年は必ず！

08年4月に『津山再開発奮闘記』を出版することができたのは大きな成果だったが、『景観・眺望をめぐる法と政策—市民と自治体が共に進めるまちづくり』の出版企画がネタ集めに終始し、完成できなかったのは残念。観光立国宣言（03年）、景観法の制定・施行（04年、05年）、国立マンション訴訟についての最判06年3月30日による景観利益の認定、京都市の新景観条例の制定（07年）等、日本における景観の価値観の変化と景観行政の変化は顕著。したがって、景観紛争に限定せず、景観をめぐる法と政策全般についてのそんな大きな変化を坂和流に明確に切り取り、アップトゥデートに解説した出版物を今年は何としても完成させたい。政党の政権公約はインチキばかりだが、これは今年還暦を迎える私の公約としたい。

(4) 『シネマルーム』の継続とさらなる拡大へ！

『SHOW-H EYシネマルーム』は02年6月から6年半の間に『パート20』まで完成した。08年の鑑賞数は年間300本を超えたから、1冊あたり75～80本とすれば年間4冊の出版が必要。そうすると観るのも書くのも大変だが、販売戦略がなお大変。そこで、営利を目的としていない私は、今年は『シネマルーム』を図書館や学校、会社、病院、公民館等の施設・団体などに寄付・贈呈することを進めたい。団塊世代が定年退職を迎える中、映画から学ぶことの面白さを実感できれば、今後さらに充実した人生が送れるはず。また既に「シニア割引」で1000円で観る特権を享受している人々たちも、『シネマルーム』の評論を読めば、さらに映画への理解と勉強意欲が高まるはず。したがって、『シネマルーム』の寄贈希望者は遠慮なく申し出てほしい。

福岡壮一弁護士、入所のごあいさつ



いよいよ今年から坂和事務所所属
弁護士となった福岡壮一です。

すでに不惑を迎えていますから、ルーキーというには多少抵抗のある外見ですが、日々謙虚に、新鮮な気持ちで仕事に取り組んでいければと思っています。

当事務所への入所を決めて以来、坂和先生が、あまりに畏れ（恐れ?）られているためか、何人もの弁護士の方々から「本当に大丈夫か?」と、ご心配をいただきました。が、私自身は、見た目以上に図太いので、今は不安よりも、ビシビシ鍛えられることを大いに期待しております。

まだまだ半人前にもなっていませんから、怒鳴られ、叱られどおしの1年になるでしょうが、この年齢で人から叱られるというのも、なかなか貴重な体験なのではないかと考えています。

いずれは立派に成長し、坂和先生に対して、逆にダメ出しするんだという野望を胸に秘めつつ、弁護士修業に邁進いたします。

皆様も、よろしく御指導のほど、
お願いいたします。

募集中！

シネマルームを寄贈します。活用して下さい！！



私の映画評論家活動は、01年10月1日、事務所のホームページ開設に伴い、そこに映画評論を掲載したことから始まりました。02年の『SHOW-H EYシネマルームI～二足のわらじをはきたくて』の自費出版に始まるシネマルームシリーズの出版、産経新聞での連載「That's なにわのエンタメ」（03年10月～07年6月）、北京電影学院での講義（07年10月）、大阪日日新聞での連載「弁護士坂和章平のLAW DE SHOW」（07年11月～連載中）そしてスカパー！のプロモーション番組出演（08年10月）などその活動の幅は少しずつ広がり、映画を通じて劇場、配給会社、評論家、映画監督のみなさんなど弁護士業では知り合うことができなかったたくさんのステキな方々とも出会うことができました。

いつも話すことですが、映画は娯楽というだけでなく、人生、歴史、法律などさまざまなことを楽しみながら学ぶことができる教材です。よって、私は学生や社会人一年生らをはじめとしてさまざまな年代の人に私の著書を読んでもらって、映画の良さ、学ぶことや考えることの楽しさを知ってもらいたいと考えています。今年1月26日に私はちょうど60歳の還暦を迎えます。また2月に発刊されるシネマルームはちょうど20冊目の成人式(?)です。そこで私としては少しでも多くの方に私のシネマルームを読んでいただきたいと思いますので、学校、会社、病院、公民館等の施設・団体にシネマルームを寄贈したいと考えています（勝手をいいますが、着払いで送りますので、送料はご負担願います）。寄贈の条件はただ1つ、「読んでいただけること」です。

御希望の施設・団体がありましたら遠慮は無用ですので、同封の本の注文書の裏面「寄贈申請書」に送付先・冊数等必要事項をご記入のうえ、どしどしご応募下さい。

坂和宏展の新米弁護士奮闘記～第5回～

坂和弁護士の息子の坂和宏展です。このコーナーも回数を重ね、そろそろ「新人弁護士の奮闘」から「中堅弁護士の活躍」くらいに格上げされないものかと不遜な(?) 思いに駆られる今日この頃ですが、いやいや、実務は甘くない、もっと厳しい局面にこれからどんどん直面するんだ、と自分を戒めたりもしているところです。さて、最近、不動産市況がきわめて厳しい状況にある、というニュースが連日のようにメディアで報じられています。弁護士として仕事をしていると、不動産関連企業の倒産といった「不況直結案件」でなくとも、不動産の売買は日常業務に密接な関係があり、たとえば、相続財産の中に含まれる不動産を売却して金銭による分割をしようとしても、肝心の不動産が売れないことには協議が進まない、といった現象に直面することになります。バブル期に購入した不動産の場合、当然購入時とはかけ離れた価格で処分せざるをえないので、当事者の見込みと食い違い、強い不満を残すといったこともあります。現在の不動産市況の悪化は、サブプライムローン問題な

どいくつもの要素が絡み合って発生しているものであり、素人が簡単にその構造を読み解くことは難しいと思います。しかし、日本人は「持ち家願望」が強いと言われ、住宅を所有することが「念願」である(であった)人が数多くいる中で、「所有にともなうリスク」が適切に理解され、評価されてこなかったことが、日本の不動産がバブルを頂点とした「激しい浮き沈み」に翻弄され続けていることの一つの要因ではないでしょうか。

もちろん、資本主義における市場のもとでは、どんな商品であっても市場での価格変動は避けられません。これを抑制するために、市場に規制を加えることがいいのかどうか、加えるとしてどのような形で規制を及ぼすのか、というのは難しい問題です。ただ、一人の消費者の視点に立ったとき、自分がその商品を本当に必要としているのか? 買った場合にどのようなリスクがあるのか? といったことをよくよく考えて、身の丈にあった消費生活を営む、ということも必要なのではないか、と思います。



坂和が選ぶ2008年の映画ベスト5!
(坂和が2008年に観た映画の中から
ベスト5を選出します)



<洋画編>

第1位 12人の怒れる男 (『シネマ 21』掲載予定)	ヘンリー・フォンダ主演のあの名作以上の傑作として、また裁判員制度の教材として必見! 人間が人間を裁くことの深みをじっくりと!
第2位 ゼア・ウィル・ビー・ブラッド (『シネマ 19』300 頁)	実在の石油王をモデルとした、人間の欲と裏切りそして狂気のサマがオスカー俳優の怪演で迫ってくる。不気味だがメチャ面白い158分の大作をじっくりと。
第3位 つぐない (『シネマ 19』306 頁)	13歳の少女がついた1つの嘘が1人の男を苦境に。そこから始まる壮大な物語の構成力はお見事。そして、タイトルにふさわしい、最後に明かされるあっと驚く真実とは?
第4位 悲しみが乾くまで (『シネマ 19』245 頁)	デンマークの女性監督スサンネ・ピアが遂にハリウッドに進出! 超アップの撮影手法、そして喪失と再生をテーマとした大人の人間ドラマの感受性豊かな描き方に注目!
第5位 ぼくの大切なともだち (『シネマ 20』296 頁)	親友はいる? 誰なの?、の問いかけから始まる親友探しは、これぞフランス映画! というおしゃれなテイストでいっぱい。年末年始には、親友との友情の再確認をしっかりと。

<邦画編>

第1位 ザ・マジックアワー (『シネマ 20』342 頁)	映画は娯楽。そんな王道を突き進む三谷マサツグが全開! 佐藤浩市、妻夫木聡、深津絵里らの怪演に唖然!
第2位 母べえ (『シネマ 18』236 頁)	これぞ日本映画の良心。それを山田洋次と吉永小百合が体現! ちよっときな臭い時代状況の今、あの治安維持法の時代への反省をこんな名作で。
第3位 アフタースクール (『シネマ 19』213 頁)	映画は監督と観客との騙し合い。内田けんじ監督のそんな挑戦にあなたはどこまで応えられる? 映画は脚本が勝負! あらためてそれを再確認。
第4位 おくりびと (『シネマ 21』掲載予定)	邦画の良さはむしろ外国人の方がよく選別? モントリオール世界映画祭での受賞をみれば、そんな皮肉な見方も。本木クンの美しい演技とあっと驚く結末に注目!
第5位 私は貝になりたい (『シネマ 21』掲載予定)	50年ぶりにあの名作がリメイク、いや完全版として甦った! 紅白の司会者コンビとしてのみならず、あの戦争そしてC級戦犯というシリアスなテーマでも、若者たちのリーダーに。

<中国・台湾映画編>

第1位 レッドクリフ Part 1 (『シネマ 21』掲載予定)	呉宇森(ジョン・ウー)監督作品が目下全世界を席巻中。「Part 2」公開は09年4月。赤壁を真っ赤に焦がす大スペクタクルに期待!
第2位 ラスト、コーション (『シネマ 17』226 頁)	李安(アン・リー)監督が描く、スパイ映画のスリルとハードな性描写の醍醐味をタップリと! 上海万博に向けて上海のお勉強にも。
第3位 言えない秘密 (『シネマ 20』358 頁)	監督としても周杰倫(ジェイ・チョウ)の才能が開花! 台湾の若手カリスマ俳優、歌手が描く不思議な世界を堪能しよう。
第4位 トゥーヤの結婚 (『シネマ 17』379 頁)	内モンゴル自治区の砂漠化と水不足は深刻。貧しさの中、ヒロインは下半身不随の夫との離婚と子連れでの再婚を決断。そんな、かぐや姫レース(?) にみる人生模様と切なさに注目!
第5位 王妃の紋章(満城尽帯黄金甲) (『シネマ 19』155 頁)	08年8月8日の北京五輪開会式の予行演習を張藝謀(チャン・イーモウ)監督はこの映画で? 重陽の節句、モチーフの菊そして原題の意味を理解すれば、面白さは倍増!

<韓国映画編>

第1位 シークレット・サンシャイン (『シネマ 19』66 頁)	『オアシス』(02年)に続いて、イ・チャンドン監督が最高傑作を! またムン・ソリに続いてチョン・ドヨンの最高の演技を! 静かで意味シなラストシーンをじっくりと。
第2位 インディアン・サマー (『シネマ 19』55 頁)	韓流法廷ドラマに興味津々。弁護士と女性死刑囚とのラブストーリーは超異色。法科大学院の教材にもピッタリの傑作に注目!
第3位 プレス (『シネマ 19』61 頁)	キム・ギドク監督14作目のテーマは、面会室で張震(チャン・チェン)扮する死刑囚にプレゼントする四季。重なり合う男と女のプレスに、あなたの感性はどうタッチ?
第4位 手紙 (『シネマ 19』132 頁)	韓流ラブストーリーの傑作は、泣かせどころがシャープ。97年のNO1ヒット作でタップリと涙を。ちなみに、美人女優崔貞実(チェ・ジンシル)の自殺騒動は韓国のネット規制にいかなる影響を?
第5位 恋の嵐(淫乱書生) (『シネマ 19』93 頁)	淫乱小説に春画を挿絵として使ったら大ヒット! 李朝時代にマルキ・ド・サドのような小説家がいとは! 王妃との密通はヤバイが、その性愛シーンの激写は蜜の味。こりゃ面白い。

上海旅行記 (08. 8. 22~8. 24) —中国語による出版に向けて

(1) 07年10月10日には北京電影学院での特別講義という1つの夢が実現した。もう1つの夢である中国語による出版企画が具体化したのは、日本在住20年のバイリンガル作家毛丹青さんとの出会いから。彼が司会を務めた08年4月2日の「中国の人気作家蘇童が行く関西の旅 歓迎座談会」への出席は、私にとっての大きな転機となった。これによって従来全然知らなかった中国の出版社関係の人たちや日本の各大学で中国文化の研究を続けている教授たちとの交遊が始まったわけだ。

(2) そんな中、直接編集者と話を煮詰めるのが1番という毛さんの提案によって実現したのが、08年8月22日~24日の上海旅行。東京から来てもらった通訳・翻訳の王淑敏先生と合流し、地下鉄1号線の陝西南路駅の南にある上海文芸出版社で、編集者の夏青根さんとの打合せが始まったのは、8月22日の午後2時頃。過去10回以上の坂和的中国旅紀行をメインとし、その各地に中国映画の話を入れていくという内容で準備していたデータを手渡したが、これはあくまで参考。旅行関係の本を得意とする夏さんからは、たくさんのサンプルが提出され、議論の結果概ねこれでいこうという方向が決定した。



上海文芸出版社での打合せ

(3) 毛さんのキーワードは「遊」。つまりその本には、記念写真でなく私が動いている写真が不可欠ということ。そこで実現したのが、プロカメラマン陸震偉さんによる、田子坊で「遊ぶ」私の撮影会。ここはアーティストやおしゃれな店がたくさん集まったニューヨークの「SOHO」のような一帯だが、同時に狭い路地の両側で生活している「これぞ上海！」という庶民の姿も。そんな中で撮影された私の写真はさて？

(4) 中国人との信頼関係の構築には、一緒に食事をして酒を飲み互いの人間性を確かめ合うことが不可欠。それさえできれば、事務的なことはすべてお任せでもオーケーかも。そこで実現したのが1日目の夕食会と2日目の昼食会・夕食会、そしてナイトクラブでのカラオケ大会。すべて夏さんの案内によって、ツアー旅行では絶対食べることのできない美味な料理をタッブリ頂くことに。

(5) もう1つ不可欠なのが、上海での出版状況と販売状況の把握。そこで23日午前中に行ったのが、上海最大の書店「上海書城」。ここで明確になったのは、映画本と旅行本の取扱い方の相違。つまり、映画本は7階のコーナーの書棚に並べられているだけだが、旅行本は1階のメインの部分にいくつも場所をとって平積み。これを見れば、映画をメインとせず、旅紀行をメインとした出版・販売戦略の正しさは歴然！

(6) おっと、打合せ、写真撮影、視察、食事の他にももちろん観光も。上海では、夜の観光は外灘（バンド）だが、昼の観光は上海老街・豫園商場。珍しいお店で珍しい品物の数々を楽しみ、さらに値切り交渉に励みながら歩き回ること2時間。ツアー旅行では味わえない自由を満喫し、お腹がすいたところでおいしい夕食へ。



田子坊で遊ぶ坂和弁護士



豫園商場にて

(7) さて、私の夢である中国語での出版は、09年どんな展開を見せていくことやら・・・？



豪華な夕食とお酒を前に、次々と議論が。

坂和章平とすばらしき人たち～交遊録 その5～映画監督・俳優 塩屋 俊 氏



- (1) 08年9月中旬、私のケータイに塩屋俊監督から電話があった。それは、彼が監督した『きみに届く声』が梅田ブルク7で公開されるので是非観てほしい、といううれしい案内。これは渡辺淳一の原作『少女の死ぬ時』を真木大輔、杉本哲太、戸田菜穂、寺島咲、西岡徳馬らの出演で映画化したもの。離島の病院を舞台とし、「強くなりたい!」というテーマで若手医師の悩みと確執が描かれる作品。9月20日から1週間の限定公開だから鑑賞した人は少ないだろうが、私が彼と知り合い交流を深めるきっかけとなった、『0（ゼロ）からの風』（07年）と同じような問題提起作だ。
- (2) 弁護士登録以来35年間ずっと交通事故による損害賠償事件を扱っている私は、07年、08年と交通事故をテーマとした講演が続いている。そこで飲酒運転撲滅と事故防止をアピールするため私がいつも予告編を上映しているのが、『0（ゼロ）からの風』。これは

無免許、飲酒、暴走運転で息子をひき殺しながら、加害者は業務上過失致死による軽い処罰しか受けないのなら、「私たちが法律をつくりまします」と宣言して署名運動を展開し、01年12月に危険運転致死傷罪を新設させた鈴木共子さんの姿を描いた問題提起作。

- (3) そんな塩屋俊監督との交遊は、この映画について私が書いた評論を通じて始まったのだから映画評論を書くことの意義は大きい。彼は全国を走り回りながら多方面の活動を展開しているため会えるチャンスは少ないが、焼肉+焼酎、焼き鳥+焼酎となれば、いつも楽しい議論がエンドレス。10月4日には『きみに届く声』についての議論を闘わせ、11月29日には映画談義に盛り上がりつつ、次回作の構想を伺った。

そんな塩屋俊監督の次の企画とその完成を期待し注目したい。



映画評論家SHOW-HEY テレビデビュー!!



スカパー！観た？
映画評論家兼サユリストとして
吉永小百合を熱く語りました！

⇒11月29日（土）
天神橋筋商店街にある
激ウマ焼肉店『万両』での
食事の帰り、ほろ酔い気分で。

- (1) ①相次ぐ『シネマルーム』の出版、②大阪日日新聞での『弁護士坂和章平のLAW DE SHOW』の連載、③映画ネタでの講演、に続いて今年は遂に④テレビ出演が実現。私の映画評論家活動は着実に広がっている。
- (2) 吉永小百合主演の『まぼたい』こと『まぼろしの邪馬台国』が08年11月1日に公開されるのを記念して、スカパー！が企画したのが『スカパー！祭りTV！吉永小百合祭り』。これは『まぼたい』への期待と吉永小百合論を語り、同時に一挙放映する全32作の見どころをお茶の間にお届けする45分のトーク番組。そこで浜田光夫氏と並んでゲスト出演のお声がかかってきたのが、何を隠そう中学生時代からの熱烈なサユリストである私だったというわけだ。
- (3) 収録日は10月16日。場所は東京中野のスタジオ。所要時間は約3時間。事前に台本は送られてきたが、それは主に司会者用のもの。したがって、本番に向けた私の準備作業は、①『キューポラのある街』『愛と死をみつめて』『細雪』『おはん』など7本

のストーリー等についてビデオを観ての再チェック、②その見どころ解説や求められるコメントの準備、そして③過去出演作全113本（ナレーション出演の2作を除く）の分析など多種多様。もちろん、時間は結構かかったが、好きなことをやるのは楽しいもの。

- (4) 当日は簡単なプロデューサーとの打合せおよび監督との打合せの後、メイクさんに少し顔をいじってもらったうえでイザ本番へ。自分がしゃべりたいことの半分もしゃべっていないし、しゃべったことも当然編集されているが、後にDVDで観ると、結構私がしゃべっている時間は確保してくれたようだ。テーブルに置いた資料を片づける姿や私がどっしりと構えず姿勢が落ち着かないところが玉にキズ(?)だが、しゃべっている内容はテレビ初出演にしては合格点。それが私の甘い自己採点だが、さてあなたの採点は？採点のためにはまずその番組を観てもらわなければならないから、見逃した方でご希望があればDVDまたはビデオをお貸しするので、是非お申し出を。



司会の島田秀平さん、女優の原幹恵さん
俳優の浜田光夫さんの隣で身振り手振りいっぱい
に、映画評論家としてテレビ初出演を果たした
坂和弁護士

＊ ＊ 坂和章平のカラオケ部屋 ＊ ＊

近時北新地への出没回数が激減したためか、昨年は自慢できる新曲のマスターはなし。しかし、それに代わって結婚式でのオリジナル曲の披露が2度も。私は過去何度も結婚式で美声を披露してきた(?)が、それは長瀬剛の『乾杯』、山根康広の『Get Along Together』、スターダスト・レビューの『ふたり』などメジャーな楽曲ばかり。しかし昨年は、嶋津淳子作詞、う〜み作曲のオリジナル曲が完成した。これは坂和事務所の女性事務員の結婚式用に作った曲だが、新婦のイメージに対応して歌詞を変えれば感動的なオリジナル曲になるから便利。ひょっとして、エイベックスあたりからCD製作の注文が来ないかななどと期待しつつ、今年も誰かの結婚式があればまた準備しなければ・・・。

事務局長のひとりごと (嶋津淳子)

明けましておめでとうございます。

坂和弁護士は今年1月26日に還暦を迎えますが、私が22年前に面接を受けた時と変わらず、というか今は健全な生活(?)をしているようなので、ほんとの意味で元気はつらつで、事務局には迷惑な限りです(笑)。何年か前から、意外に感動屋の坂和弁護士をほろっとさせて楽しもう!ということ(?)で、誕生日にはケーキを買ってお祝いをするようになりましたが、今年は真っ赤な帽子に真っ赤なチョッキを着てもらおうかと話していたら「猿まわしの猿みたいでかわいそう」とやさしいことを言う天使な事務局がいたので、悪魔な事務局長の企みは阻止されてしまいました。せっかくの還暦なのに・・・あきらめきれず次の機会を狙うことにします。

ところで、今年は期待の新人弁護士福岡壮一先生に、

事務局次長の奮闘記 (金子友次朗)

新年あけましておめでとうございます。坂和弁護士の真っ赤な帽子&チョッキ姿をひそかに楽しみにしていた金子です。

さて今回は、昨年11月末にたずさわった2つの控訴事件の準備書面の一次原稿作成から学んだことです。両事件とも再開発事業に関連する事案で、控訴審の第1回期日が開かれる前でした。少し補足説明をしておく、控訴とはみなさんご存知のとおり一審で下された判決に対して不服を申し立てることです(ちなみに、控訴できる期間は判決を受け取った日の翌日から数えて14日以内で、控訴状に貼る印紙は一審の1.5倍の額になります)。そして控訴人は、一審判決に対し、「この事実認定は誤っている!」「こんな判断はおかしい!」というように不服の理由を具体的に示します。これが控訴理由です。かたや被控訴人は、控訴人が主張する控訴理由に対し、「一審判決の事実認定は誤っていない!」「一審判決の判断は正しい!」といった反論をします。これらのやり取りが、控訴審がはじまって最初に行われる「攻防」です。

よく気がつき笑顔がキュートな新人事務局員の柊井彩海さんと事件処理に意欲マンマンの多和由美子さんが入所し、事務所は(坂和弁護士の怒鳴り声で)にぎやかになりそうです。

弁護士業でも映画評論家業でも一生懸命取り組んでいけば、事件の依頼や講演依頼、本の出版や新聞の連載、さらにはテレビ出演までご褒美があるという生きた見本を励みに、3人とも何があろうとも(って一体何があるねん(恐))負けずに、実が実るまでは辞めずにがんばってほしいものです。

もう実がつきすぎて(?)枯れつつある私も、がんばってサポートしていこうと思っています。

皆様、今年もどうぞあたにかい目で坂和総合法律事務所をよろしくお願い致します。



今回私がたずさわった控訴準備書面は、一方は控訴人の立場から控訴理由を書くもので、他方は被控訴人の立場から控訴理由に対する反論を書くものでした。しかし、控訴人と被控訴人のどちらの立場から書面を書くにしても、一審判決をしっかりと読み込まなければいけないのは同じです。そこで私も一審判決を読み込みました。そしてその中で感じたのが、裁判所が展開する論理の分かりやすさでした。判決の論理は、基本的に「Aという事実を認定 → これはBと評価・判断できる → よってCと結論」という形になっていて、そのつながりが明確なのです。

私は、このようにつながりが明確な判決文に触れることによって、分かりやすい文章を書くには、今書いていることが論理のどの部分に当たるのか(何のためにそれを書くのか)を常に意識することが大切だということを、改めて学びました。そしていつか、坂和弁護士を「なるほど!」とうならせるような文章が書けるように頑張りたいと思っています。皆さま、今後ともどうぞよろしくお願いします。



2位: 天神祭懇親パーティー

坂和章平の独断と偏見による坂和事務所の

2008年 10大ニュース

- 1位 中国語による『坂和的中国旅紀行・中国電影紀行』(仮題)の出版に向けて、上海で上海文芸出版社と打合せ(8月)
- 2位 国際色豊かに天神祭懇親パーティー開催(7月)
- 3位 弁護士35周年記念同期会に出席
—健康が何よりと実感(8月)
- 4位 『坂和的中国電影大観2』(シネマルーム17)出版
(6月)
- 5位 『祭りTV! 吉永小百合祭り』スカパー!出演
(10月)
- 6位 運行管理者事故防止セミナーで講義
(10~11月 計3回)
- 7位 羽佐間正雄氏主催の愛声会22周年ゴルフコンペ懇親会で
竹内まりやの『人生の扉』を熱唱(10月)

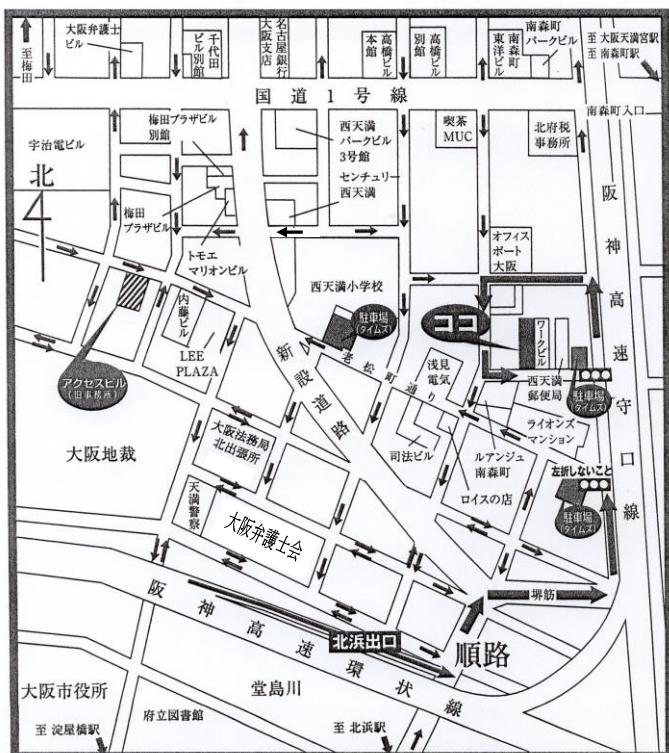
- 8位 兵庫県住宅再建共済基金制度3周年記念講演(9月)、
大阪府都市整備事業推進セミナー(11月)での講演、
映画ネタでの講演(11月)などを次々と
- 9位 年間映画鑑賞数300本を突破!(12月)
- 10位 福岡壮一弁護士、入所(12月)

08年に蒔いた、中国語による出版打合せという種が09年に大きく花開くことを期待しています。
弁護士業も福岡弁護士の入所により、さらに充実したサービスを提供していきますので、09年の坂和総合法律事務所に期待して下さい!

お正月は映画を観よう！～お薦め映画のご紹介～

『戦場のレクイエム（集結号）』（中国映画） 09 年新春 数島シネポップにて公開 （馮小剛（フォン・シャオガン）監督、チャン・ハンユー主演） 馮小剛監督が初の戦争映画に挑戦し、第17回金鶏百花映画祭で最優秀監督賞、最優秀作品賞など主要4部門を受賞！戦闘シーンは、軽妙なタッチが売りモノの馮小剛監督とは思えない迫力だが、テーマは1人生き残った連隊長による47名の戦死した兵士たちの名誉回復への熱き思い。失踪兵？それとも烈士？それは死者たちにとってえらい違いなのだ。この映画に関しては、原題の『集結号』より邦題の方がグッド？	『007／慰めの報酬』（イギリス、アメリカ映画） 09 年 1 月 24 日より T O H O シネマズ梅田ほかにて公開 （マーク・フォスター監督、ダニエル・クレイグ、オルガ・キュリレンコ主演） アメリカ発の金融危機は急速に全世界に広がったが、シリーズ22作目のボンドの活躍もボリビア、ハイチ、オーストリア、イタリアとスケールのデカさが際立つ。前作でボンドが真面目なイメージに変身した（？）のと同様、ボンドガールもお飾りの存在から「戦友」にサマ変わり？ところで、あなたは邦題の意味をどう理解？それがこの映画の大きなテーマ。なお106分という上映時間はうれしいが、動体視力の衰えたあなたは、ド派手かつ超スピーディーなアクションシーンはちと見づらいかも・・・。
『いのちの戦場 アルジェリア1959』（フランス映画） 09 年早春、全国順次公開 （フローラン＝エミリオ・シリ監督、ブノワ・マジメル主演） ベトナム戦争を描いた名作は多いが、1954年～62年のアルジェリアの独立戦争はフランスの「恥部」として政府はひた隠し？この戦争の存在自体を公式に認めず、「事件」として扱っていたのだから。そんな中、1974年生まれ俳優ブノワ・マジメルが立案・主演したこの映画は、生々しい戦場のリアリティとその中で人間性の葛藤を見事に描写。こりゃ必見の問題提起作！	『K-20 怪人二十面相・伝』（日本映画） 08 年 12 月 20 日より T O H O シネマズ梅田ほかにて公開 （佐藤嗣麻子監督、金城武、松たか子、仲村トオル主演） 第2次世界大戦が回避された1949年の帝都とは？それは、旧憲法・旧刑事訴訟法があり、華族制度による極端な格差社会の日本。そんな中で活躍する怪人二十面相とは一体誰？そして、名探偵明智小五郎とどんな対決を？他方、秘密の鍵を握る羽柴家の令嬢が真に愛する男とは？奇想天外・痛快無比な、「バットマン ビギンズ」ならぬ「K-20 ビギンズ」の面白さを存分に！
『誰も守ってくれない』（日本映画） 09 年 1 月 24 日より T O H O シネマズ梅田ほかにて公開 （君塚良一監督、佐藤浩市、志田未来主演）	①『チェ 28歳の革命』 ②『チェ 39歳 別れの手紙』 （スペイン、フランス、アメリカ映画） ①09 年 1 月 10 日～、②1 月 31 日～ T O H O シネマズ梅田ほかにて公開 （スティーヴン・ソダーバーグ監督、ペニチオ・デル・トロ主演）
まずタイトルに注目！一体誰から誰を守るの？少年による小学生姉妹殺人事件が発生し、加害少年の家族にマスコミが殺到。凶悪事件が起きるたびに昨今よく見る風景だ。あなたは警察の「犯罪者家族の保護」という任務を知ってる？そんな点に注目した脚本は、第32回モントリオール世界映画祭コンペティション部門で見事に最優秀脚本賞を受賞！「目のつけどころがシャープ」なこんな作品から、今考えるべきことは多いはず。	病氣療養中だったフィデル・カストロは08年2月国家評議会議長の職を正式に弟のラウル・カストロに移譲した。そんなキューバは今年1959年1月1日のキューバ革命から50周年を迎える。そんな中、08年5月の第61回カンヌ国際映画祭で「悲鳴と喝采」で沸かせた『CHE』2部作（計4時間25分）が遂に本邦初公開！あなたは、カストロ兄弟と共にキューバ革命を成功させた後、要職を投げうってボリビアの解放闘争に参加し処刑されたチェ・ゲバラの人物像と人生に興味がある？『蟹工船』ブームとなり映画までつくられる今の時代、人間愛に満ちた「ホンモノの革命とは何か？」を、ゲバラの生きざまから学んでみては？

〔坂和総合法律事務所 業務時間ならびに周辺地図〕



地下鉄谷町線・堺筋線「南森町」徒歩5分
地下鉄堺筋線「北浜」徒歩6分
地下鉄御堂筋線・京阪「淀屋橋」徒歩10分
JR東西線「大阪天満宮」徒歩6分

坂和総合法律事務所フロア案内

3 階 坂和総合法律事務所
2 0 1 坂和事務所会議室
4 0 1 オーナーズフロア
1階玄関はオートロックですので、当事務所にお越しの方は「301呼出」を押して下さい。



西天満コートビルの外観

業務時間

平 日 午前9時～午後6時
土曜日 午前9時～午後3時
業務時間外の相談を御希望の方は
お申し出下さい。

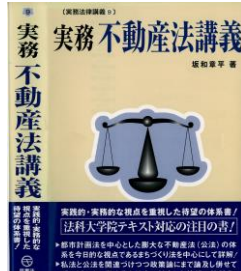
相談にこられる際は日時の予約をしていただき、
関係資料を一式持参して下さい。
また相談内容のメモを事前にFAXもしくは
メールにていただければ幸いです。

出版物紹介

法律実務家
にオススメ

がっちり法律を勉強したい人にオススメ！

「交通事故」
まさか！
の備えに



まるごと
坂和弁護士！

坂和弁護士をもっと知りたい！ 法曹界に興味がある方 必読！

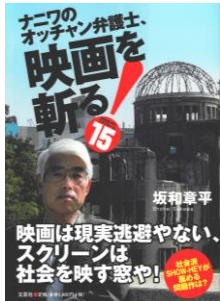
坂和弁護士の奮闘
ぶりが楽しめる！

愛媛大学での「都市
市政政策」の集中
講義を実況中継。
まちづくり・都市
問題がぐっと身近
に！



新刊！

やっぱり坂和弁護士の映画評論はおもしろいわ！『シネマルーム』シリーズ 充実のラインナップ



中国映画ファン必読

韓国映画ファン必読

